

① 新図書館の運営について

図書館建設に当たり、住民参加は自治体にとって必要不可欠なものと捉えています。また、住民ボランティアの参加により、図書館は地域のニーズに適切に対応し、コミュニティ全体の結束を高める結果になるのではと考えています。例えば、ボランティアが図書館のスタッフと協力して、読み聞かせイベントやワークショップを実施することで、地域の子供やシニア層が参加し、交流を深める機会を提供します。図書館の運営においても財政的な支援、予算を節約する助けともなり得るのではないかと考えています。

その活動は地域参加意識を高め、個々の社会貢献意識をも向上させる効果や、さまざまなスキルや経験を持っており、それを生かして図書館のプログラムやサービスの多様性を向上させることができるのではないのでしょうか。このように、図書館ボランティアは地域社会の発展と地域住民の生活の質の向上に不可欠な存在であり、その重要性を認識し、積極的にボランティア活動を支援することが重要だと思います。また、図書館建設前に職員・司書を決定し、共に協議する場も必要と感じています。専門知識や経験を活用して図書館の設計やプログラムの策定に重要な貢献をしてもらうこと、さらに、建設プロジェクトに参加することで、建設段階から運営に関する課題やニーズを把握し、より効果的な図書館の運営計画を立てることができるのではないかと考えています。今後、ソフト面を並行して進める上で早急に取り組むべき課題があるのではないかとこの視点に立ち、以下の質問をいたします。

- (1) 人員配置についてどのような計画があるか。専門的な人材配置をどう考えているか。
- (2) ソフト面の充実はどのように図っていくのか。その運営を所管するのはどこか。
- (3) 図書館法では図書館の運営に対し、住民に運営状況を積極的に公開し連携していくことを義務付けている。本町でも施設運営への住民参加と情報共有を図っていく必要があり、住民説明会の開催は有効な手段と考える。完成までの期間、さまざまな場面で意見や要望を聞くことで利用者目線の図書館が完成すると期待している。今後、どのような手法が考えられるのか。
- (4) 住民ボランティアの存在は、図書館を育てていく上で重要な位置づけの存在ではないかと思う。今後の協力体制をどう構築していくのか。